

放射線科 専門研修プログラム

目指せ！“Doctor's doctor”
必要とされる優れた放射線科医へ！

募集定員 **5名**
研修期間 **3年**



責任者からのメッセージ



放射線科
教授 東 美菜子

放射線医学は、放射線診断(画像診断、核医学、IVR：Interventional Radiology)と放射線治療からなります。近年、高精度で安全な検査・治療を可能にする技術の開発が著しく、人工知能(AI)の研究もさかんで、高度な技術の臨床応用が進んでいます。放射線科では、様々な技術を駆使して、各診療科のニーズに応じ、あらゆる年齢・臓器を対象とした適切な放射線診療を提供することに日々励んでおります。我々宮崎大学放射線科は、宮崎の放射線診療の充実を目的とした人材育成に力を入れ、チーム医療の一員としての心構えや各診療科医師とのコミュニケーションスキル、放射線診療の知識と技術を習得できるような充実した研修プログラムを作成し、熱心に教育を行っています。さらに、最先端の画像技術やAIを用いた研究を行っており、リサーチマインドの育成にも取り組んでおります。みなさんと一緒にお仕事ができる日を医局員一同大変楽しみにしております。

プログラムの特徴

本プログラムは、放射線診断医・放射線治療医となるために必要な研修を、基幹病院である宮崎大学医学部附属病院と連携施設で行います。

- 基幹病院である宮崎大学医学部附属病院で、放射線診断(画像診断・核医学・IVR)・放射線治療のトレーニングを幅広く受けます。
- 連携施設では、救急疾患や日常よく遭遇する疾患の画像診断を多く経験し、総合的な診療能力を培います。
- 症例報告を含む学会発表の経験を積み、海外での学会発表や論文作成を目指します。
- 希望者は、先進画像を用いた研究や人工知能(AI)研究など、画像診断・放射線治療に関する研究を経験できます。

連携施設名等

	施設名	指導医	専門分野・特徴
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	12名	画像診断・IVR・放射線治療
連携施設	県立宮崎病院、都城市郡医師会病院、藤元総合病院、宮崎市郡医師会病院、宮崎江南病院		
関連施設	都城健康サービスセンター		

取得可能な専門医資格および技能

- 放射線科専門医
- 放射線診断専門医
- 放射線治療専門医
- 核医学専門医
- PET核医学認定医
- IVR専門医
- マンモグラフィ読影認定医
- がん治療認定医

○ 研修コース 本人の希望で決定します

- A：大学病院での研修を中心としたコース
B：大学病院で基礎的な研修をしたのち、連携施設中心に研修するコース
C：大学病院・連携施設での研修と博士号取得を同時に目指すコース

	1年目	2年目	3年目
A	大学病院	大学病院	連携施設
B	大学病院	連携施設	連携施設
C	大学病院 (臨床・大学院)	大学病院 (臨床・大学院)	連携施設 (臨床・大学院)



プログラム達成目標

- 1 画像診断・IVR・放射線治療に関する知識の修得
- 2 安全で質の高い医療を提供する専門技能の修得
- 3 医療人としての倫理観とチーム医療の一員としての姿勢を持つ専門医の育成
- 4 リサーチマインドの育成

経験すべき検査・読影数		経験すべき治療数	
X線単純撮影	400例	IVR	30例
消化管X線検査	60例	放射線治療	30例
超音波検査	120例		
CT	600例		
MRI	300例		
核医学検査	50例		

週間スケジュール

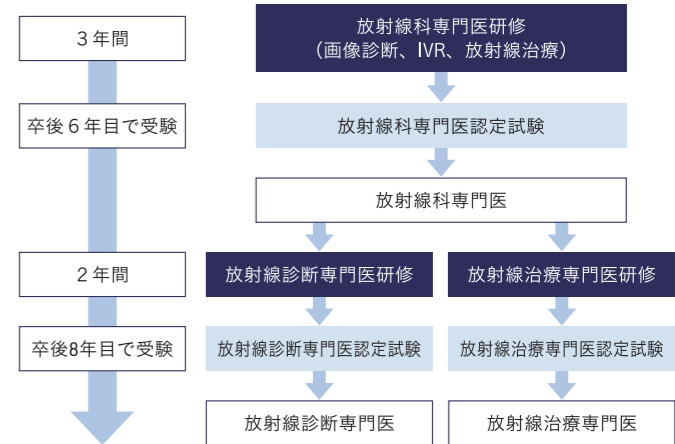
各部門の研修をそれぞれ3～6か月行います。

- 1 脳神経・骨軟部部門
- 2 胸部部門
- 3 腹部部門(IVR)
- 4 核医学部門
- 5 放射線治療部門

(腹部部門の例)

	月	火	水	木	金
午前	CT当番 病棟業務	CT当番 病棟業務	IVR 病棟業務	IVR 病棟業務	CT当番 病棟業務
午後	MRI当番	MRI当番	IVR	医局会・勉強会 病棟カンファレンス	MRI当番
夕方	症例レビュー	症例レビュー	症例レビュー	症例レビュー 救急カンファレンス	症例レビュー

専門医取得までのタイムスケジュール



- CT・MRI当番では、CT・MRI室で読影をしながら、撮影方法の決定・検査前チェック(腎機能・アレルギー・金属など)、造影剤の選択・副作用対応など、安全で適切な検査の実施を担当します。
- 腹部部門にはIVRが含まれ、症例を多く経験し、緊急IVRにも対応します。
- 核医学部門では、放射性同位元素を用いた画像診断や内用療法を担当します。
- 放射線治療部門では、治療計画の設計や、治療中の患者の診察・ケアを行います。
- 毎日、グループごとに、その日の症例の診断・治療に関する振り返りを行い、診断に困った症例や皆で共有すべき症例、若い先生にとって教育的な症例などを、グループのチーフがレビューします。
- 指導医と一緒に入院患者を受け持ち、毎週木曜日の病棟カンファレンスで担当患者に関するプレゼンテーションを行います。
- 毎週木曜日の勉強会では、論文紹介や症例提示を担当します。

指導医からのメッセージ



川野 真嗣

CTやMRI、核医学を中心とした画像診断、CTガイド下生検や各種カテーテル治療を行うIVR、手術をせずに癌を治す放射線治療は、様々な医療を提供する現場において中心的役割を担っており、年々必要性が高くなっています。当科では、将来の宮崎の放射線診療を支える専門医育成に情熱をもって取り組んでいます。若手医師、女性医師も多くライフプラン・キャリアプランに関して相談しやすい環境が整っており、ライフステージの変化や個人の希望・能力に応じ多様な働き方ができる医局です。ぜひ一緒に頑張らしましょう。



山口 朋音

放射線科は裏方的な存在ではありますが、他科の先生方を支える重要な科です。またメインの読影だけでなく、IVR等で治療を行ったりする機会もあり幅広く活躍することも可能です。このように放射線科には様々な可能性があるため、読影に興味がある方にはもちろん、自分の得意分野が分からなかったり興味のある分野が定まらない方にもおすすめできます。実際にローテーションして放射線科の明るい雰囲気を感じて欲しいです。若手医師も多いため気軽に見学に来てください!

先輩からのメッセージ



松村 研吾

姿が見えにくい放射線科ですが、そのお仕事はまさに多種多様です。頭から足の先まで、胎児から亡くなった人まで、健診から病気の診断、さらに治療まで関わります。新しい検査法や機器、人工知能を使った機能もどんどん開発され、それらを操れる無限の可能性が待っています。そして、何でも気さくに尋ねあえる雰囲気が当科の一番の魅力です。看護師さんや技師さんなどスタッフの皆さんと一緒に、柔らかな雰囲気の中でお仕事を楽しみましょう!



新地 康規

初期研修2年目に宮崎大学病院の放射線科で研修し、画像診断やIVR治療に出会い、入局して放射線科2年目になりました。1年目ではCT・MRI読影、核医学、IVR、放射線治療をそれぞれ2-3ヶ月ローテーションします。私は地域枠での入学でしたので、キャリア形成プログラムに則り医師少数区域の県内専門研修機関として、都城市郡医師会病院での研修がスタートしました。勤務する病院が変わると読影する症例やIVRの症例も変わり、毎日が新しい学びの連続です。少しでも興味があれば見学・研修に来てください。



原 卓也

救急・集中治療から放射線科に転科し、放射線科医6年目となりました。画像診断/IVRを中心に、宮崎の患者さんにより良い医療を提供できるよう日々頑張っています。若手も増え、非常に風通しのよい職場で毎日楽しく働いています。画像診断のニーズは高くなってきており、自分の頑張りやdirectに患者さんに還元でき、やりたい自分、やりたい事を叶えるのに非常に良い職場だと思っています。一緒に宮崎の放射線科を盛り上げていきましょう。



山田 莉奈

救急が忙しい病院で初期研修をしており、CT/MRIをオーダーする機会が多かったのですが、翌日の読影レポートで自分が見つけた所見の何倍もの情報量が返ってきた時に「同じものを見ているはずなのに」と、放射線科医のすごさを実感し専攻を決めました。全ての臓器、年齢を対象にしており非常に奥が深い分野です。また当科では、毎日振り返りの時間があり、自分が読影した症例のフィードバックを診断専門医の先生から直接頂くことができます。先生方もとても優しいので気兼ねなく質問ができる最高の環境です。見学大歓迎ですので、是非一度いらして見て下さい。皆さんのことを医局員一同、心よりお待ちしております。

お問い合わせ先

担当：東 美菜子

T E L : 0985-85-2807
F A X : 0985-85-7172
e-mail : minako_azuma@med.miyazaki-u.ac.jp

放射線科HP

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/radiology/

